



福島原子力事故関連情報アーカイブ

FNA

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	除染後の効果持続性の確認及び今後の空間線量率変化の予測
Alternative_Title	Confirmation of sustainability after decontamination and prediction of future air dose rate change
Author(s)	西内 征司(福島県環境創造センター), 鈴木 聡(福島県環境創造センター), 川瀬 啓一(日本原子力研究開発機構), 渡邊 雅範(日本原子力研究開発機構), 山下 卓哉(日本原子力研究開発機構) Nishiuchi, Masashi(Fukushima Prefecture Centre for Environmental Creation); Suzuki, Satoshi(Fukushima Prefecture Centre for Environmental Creation); Kawase, Keiichi(Japan Atomic Energy Agency); Watanabe, Masanori(Japan Atomic Energy Agency); Yamashita, Takuya(Japan Atomic Energy Agency)
Citation	第 7 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.73 The 7th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション：環境再生・復旧・復興
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157507
Right	© 2018 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 7 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



除染後の効果持続性の確認及び今後の空間線量率変化の予測

西内征司、○鈴木聡（福島県環境創造センター）

川瀬啓一、渡邊雅範、山下卓哉（(国研) 日本原子力研究開発機構福島環境安全センター）

1 背景

平成 30 年 3 月に帰還困難区域を除いた地域の面的除染が終了したことに加え、放射性物質の物理減衰等により、福島県内の空間線量率は着実に低減している。一方で、放射性物質による再汚染や放射線による健康影響等、依然として県民から放射線に対する不安の声がある。そのため、生活圏における除染後の効果持続性を確認するとともに、今後の空間線量率の変化を予測することを目的として、除染が完了した施設を対象とした空間線量率の測定と結果の解析を行った。

2 方法

除染を実施した福島県内の汚染状況重点調査地域における 5 つの公共施設を対象として、NaI シンチレーション式サーベイメータによる空間線量率の測定を行った上で、除染後の空間線量率測定結果からの低減状況を確認するとともに、JAEA が開発した除染活動支援システム（RESET）及び分布状況変化モデルを活用し、今後の空間線量率を予測した。



空間線量率測定の様子

3 結果

いずれの施設においても、本調査における空間線量率測定結果の平均値は、除染直後の空間線量率測定結果の平均値より低減していることを確認した。また、今回の調査結果を基準として今後の空間線量率変化を予測した場合、10 年後には今回の調査結果から約 30%程度低減するなどの予測結果が得られた。今後は、引き続き空間線量率の測定を継続し、予測結果との整合性を確認するとともに、除染の効果持続性について調査を行う予定としている。

なお、結果は施設が立地する自治体へ報告し、担当者の現状理解向上のための基礎資料として利用されることとなった。

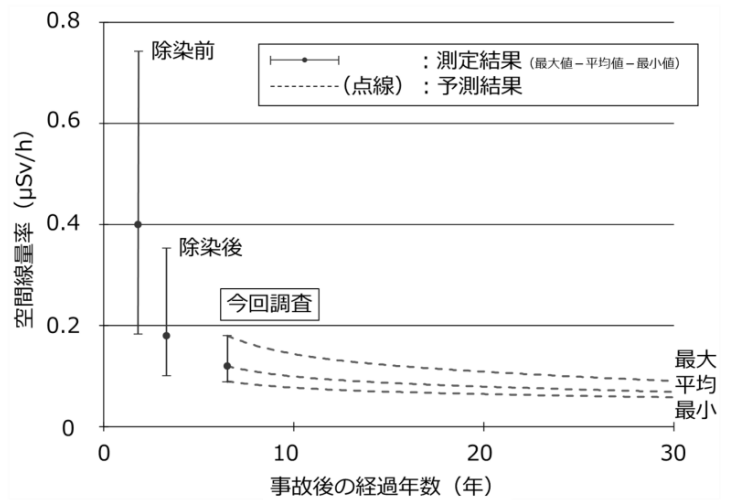


図 1 空間線量率の変化と今後の予測

今回調査（平成29年9月から）

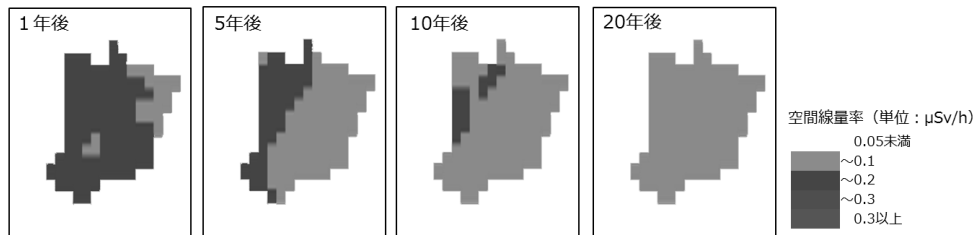


図 2 今後の空間線量率変化のマップ